

オナガガモ

Anas acuta

カモ科・旅鳥（一部越冬）



オナガガモ（オス）

名前の由来

尾が長くともっているカモであることに由来する。古くは「さきがも」「さくがも」とも呼ばれた。「カモ」は「浮かぶ→うかむ→かむ→かも」だとする説や「雁（ガン）→かむ→かも」だとする説がある。漢字名：尾長鴨

特定種

該当なし

形態的特徴

全長（くちばしの先から尾の先まで）オス75cm、メス53cm。首が長く、オスの尾は長くのびていて、メスの尾も他の種に比べて長い。足は鉛灰色。

オスの頭は黒褐色で胸と腹の中央は白い。首から頭の側面やや後ろに白い線が入っている。くちばしは黒くて両側は青っぽい鉛色。背と脇は灰色で、腰の両側に淡い黄色の斑がある。翼の後縁は白い。

メスは褐色で黒っぽい斑がある。くちばしは黒くて両側は灰色である。

声：水面で泳ぎながら、オスは「ピリッ、ピリッ、ピリッ」とコガモに似た声で鳴くことがある。群れの場合には「プリッ、プリッ」と小声で鳴き合っていることがよく観察される。メスは「クワッ、クワッ」というような声で鳴く。
類似種と区別点：ヒドリガモ、ヨシガモ、マガモ、ハシビロガモのいずれもメス。

ヒドリガモのメスは頭部の褐色味が強く、尾はとがらない。ヨシガモのメスはくちばしが黒く、尾は長くない。マガモのメスはくちばしと足がオレンジ色。ハシビロガモのメスは足の色がオレンジ色。



オナガガモのオス（右）とメス。オスは尾が長く、メスも他の種に比べると長い。オスの頭側面の白線も印象的

生息環境・分布

湖沼、河川。十勝には主に春と秋にくる旅鳥。

分布：ユーラシア大陸と、北アメリカ大陸の中高緯度地方に繁殖分布し、冬は両大陸南部とアフリカ大陸、中央アメリカに渡って過ごす。

日本では、主として本州から九州にかけて越冬する。北海道（十勝でも）では旅鳥。河川や湖沼に生息する。ハ

クチョウの餌付けされている所には多い。

十勝では、十勝川温泉白鳥護岸などで少数越冬している。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期	■	■	■	■					■	■	■	■
本州以南 （越冬期）	■	■	■								■	■
ユーラシア中高緯度 （繁殖）				■	■	■	■	■	■	■		

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）
草花

（外来種）
草花

哺乳類

（水辺）
鳥類

（葦原・樹林）
鳥類

食性・他生物との関わり

水草の種子や破片、水生昆虫を食べる。夜間湿地などで採食する。

浅い水たまりや池の縁などで、くちばしを水につけてグチャグチャと動かしてこしとるといふ。また浅い水底に首を入れたり、逆立ちするように上半身を入れたりして、採餌する。比較的長い首を持っているので、いくらか深い水底を利用できるが、潜って採食はしない。

しばしば人に餌づけられる。

捕食者は猛禽類など。



キンクロハジロ(手前)と一緒にいるオナガガモのオス(右)とメス

繁殖生態

日本では基本的に繁殖せず、ユーラシア大陸の中高緯度地方などで繁殖する。

繁殖期は5～7月。一夫一妻で繁殖するが、抱卵期になるとつがいは解消されるという。

巣は水辺の草むらになった地上で、枯れ草などを用いて皿形に作られる。メスが作り、産座には自分の綿羽を敷くという。

1つの巣につき7～9個の卵が生まれ、抱卵はメスのみ、22～24日くらいでふ化する。

興味深い話

■つがいの形成は12月ごろから4月ごろまで行われ、1～2羽のメスをめぐり、オスのグループディスプレイ(ディスプレイ:メスや他の個体に対して誇示をおこなう特徴的な行動)がよく見られる。オス達は下くちばしを引いて押し合うように、1羽のメスを群れから引き離し、ピロピロッと鳴きながら、メスの周りを泳ぎ回り、首を上げて下くちばしを引き、胸を上げ下げし、尾羽を上げるディスプレイを盛んに行う。

■オスどうしの対立のディスプレイは首を斜め上に向け、上下に振りながら相手に迫っていくもので、すべてのカモ類に共通である。またメスのオスに対する行動もすべてのカモ類に共通で、水面につくくらいに首を水平に伸ばして前に泳ぐディスプレイである。

■十勝地方のアイヌ語では、カモ類一般(特にマガモ)を「ウォルンチカブ=水の中にいる鳥」という。



オナガガモ(メス)

配慮事項

水草や水生昆虫の生息する開放水面が必要。

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)
「原色日本野鳥生態図鑑(水鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000
「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993

「野鳥ブックス2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994 増補版7刷)
「最新版 北海道の野鳥」藤巻裕蔵監修・小堀煌治解説・北海道新聞社編、北海道新聞社 1997
「アイヌ語で自然かんさつ図鑑」帯広百年記念館編、内田祐一・池田亨嘉、帯広百年記念館友の会 2004

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ
ウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ